

令和7年度からの部活動地域展開（連携・移行）について

R7.1月

1 背景

- 少子化が進行することにより、部員数が確保できずチームが成立しなくなったり、顧問の複数配置が困難な状況になったりして、各校で部活動の募集停止や廃部を検討しなければならない状況になってきている。（今後なっていく）

2 部活動地域展開に係る基本的な考え方

- (1) 少子化が進行する南丹市において、生涯に渡って子ども達の豊かな生活や心身の健康に繋げるため、可能な限り子ども達の多様なニーズに対応できる持続可能な体制を整備する。
- (2) 本市の現状から「学校部活動」を完全に「地域クラブ活動」に移行することは目指さず、学校部活動をサポートする「学校部活動の地域連携」を基本に進める。
- (3) これまでの取組経過を含め、必要に応じて各校の学校運営協議会やPTAの本部役員会等で説明する。

3 これまでの主な取組経過

- (1) 「南丹市部活動地域移行在り方検討協議会（改称予定）」は、年2回程度のペースで、本市としての方向性を確認しながら取組を進めてきた。
- (2) チームスポーツの部を対象に、「南丹市チーム」で活動できる状況を担保し、野球、サッカー、バレー、バスケをモデルに合同練習を月1回程度開催してきた。
- (3) 南丹市部活動ガイドラインを策定し、令和6年4月から施行した。
- (4) 文化系部活動の地域連携については、吹奏楽部も含めて地元の吹奏楽団とも話し合いを行ったが、地域連携は困難であることを確認した。
- (5) 「朝練習については、原則行わない」とし、「大会の関係等、校長が必要であると認めた場合は実施してもよい」という確認がされている。（令和4年）

4 令和7年度の具体的な取組

- (1) 入部したい部が自校にない場合のモデルとして、園部中学校陸上部を指定し、自分の可能性を伸ばすために希望する生徒は、休日の活動に限って活動できるものとする。但し、自校で入部している部がある場合、自校での部活動を優先することを原則とする。また移動等に関しては、公共交通機関の利用、または保護者の送迎を基本とする。
この取組を総括し、陸上以外の部活動で希望する生徒が出た場合、同様に実施できるかを中学校長とも十分連携を図り、「南丹市部活動地域移行在り方検討協議会」で方向性を決定する。
- (2) 地元のスポーツ団体の中で、中学生の個人的な受け入れが可能な団体を確認し、「地域移行」のスタイルを追求する。その場合、「指導料」が発生することもあるので、その部分も含めて確認でき次第、各中学校にも情報提供する。
- (3) スポーツ協会、スポーツ少年団、ボランティア協会、更には各校の学校運営協議会等に働きかけ、指導者の人材確保に努める。但し、採用に関しては、学校の求めに応じて南丹市会計年度任用職員申込書に基づき面談等による選考で決定する。